



継続と改革

例会日 毎週水曜日 12:30～ 例会場 ホテルシーズン日南

住 所 日南市園田 3-11-1 TEL 0987-22-5151 FAX 0987-22-9588

会長 黒岩久登

平和構築と紛争予防月間

第 3367 回例会	No.30	2024. 02. 28	晴れ
点鐘・国歌・ロータリーソング	12 時 30 分	「それでこそロータリー」	
四 つ の テ ス ト	古澤昌子 君		
ゲ ス ト	水居 徹氏 (アイコムティ (株) 代表取締役・宮崎アカデミーRC)		
例 会 行 事	ゲスト卓話		

会長時間

先日、内閣府が発表した2023年の名目国内総生産 (GDP) は、591兆4820億円。ドル換算は4兆2106億ドルとなり、4兆4561億ドルのドイツを下回り、世界4位に転落したとの報道がありました。56年ぶりにドイツを下回ったそうです。

このことについて今日は話をしたいと思います。日本は長らく、資本主義国としては米国に続く「世界第2位の経済大国」だったが、90年代以降は低迷が続き、中国の台頭を受けて10年にその座を明け渡した。日本とドイツのGDPは00年代には約2.5倍の開きがあったが、ドイツが欧州の経済統合を経て成長する一方、日本はデフレと長期低迷から抜け出せず、その差が縮まっていた。記録的な円安となった23年はドル換算のGDPが縮小したことがダメ押しになり、半世紀ぶりの逆転となった。円相場が円高に転じれば、24年に日独が再逆転するとの見方もあるが、日本は人口減少に加え、生産性の向上でも苦戦しており、国際通貨基金 (IMF) は当面、ドイツが日本を上回り、26年にはインドが日本を抜き去ると予測している。

「中国に抜かれるのとドイツに抜かれるのでは、意味合いが全く異なる」みずほ銀行の唐鎌チーフマーケット・エコノミストはそう指摘します。第2次世界大戦でともに敗戦国になった日独両国は、戦後の荒廃の中から奇跡的な経済復興を遂げ、それぞれ世界をリードする経済大国に発展した。日本は1968年に国民総生産 (GNP) で西ドイツ (当時) を超え、資本主義国で米国に次ぐ経済規模に躍り出て、中国に追い抜かれるまで「世界第2位の経済大国」の地位を享受した。ドイツは東西統一 (90年) や欧州単一通貨ユーロの導入 (99年) といった欧州経済統合の苦難を乗り越え、今では域内最大の経済大国として欧州連合 (EU) の盟主の役割を果たす。国際通貨基金のデータで両国の名目GDPの推移を見ると、80年には日本が1兆1278億ドルだったのに対し、西ドイツは8537億ドル。欧州の経済統合を経た00年は日本の4兆9683億ドルに対し、ドイツが1兆9488億ドルとなり、その差は1.3倍から2.5倍に広がっていた。

ところが、中国が台頭した後の20年には日本の5兆506億ドルに対しドイツが3兆8846億ドルと、その差は再び1.3倍に縮小し、23年にはついに日独が逆転。IMFは24年以降もドイツが日本の名目GDPを上回り続けると予想する。GDPはその国・地域で一定期間内に生産されたモノやサービスの付加価値を合計した数値で、一言で言えば経済の「規模」を表す。

このため、先進国と新興国・発展途上国の経済発展の格差が縮まってくると、GDPの順位は人口の多さに比例するようになる。中国が14億人以上の人口を擁するのに対し、日本は10分の1以下の約1億2500万人。一方、ドイツは役8300万人ではほんの3分の2程度にとどまる。みずほ銀行の唐鎌氏は「中国に追い抜かれるのは時間の問題だった。しかし、人口が7割程度のドイツに逆転されることは必然でなかった」と話す。日独の逆転には日本の経済環境や経済運営に課題が多いことが表れているというわけだ。

人口の少ないドイツに逆転を許したのはなぜか。第一生命経済研究所の永浜利広主席エコノミストは「ドイツは00年代以降、経済連携協定の推進や法人税率の引き下げなど企業が国内で活動しやすい環境を整えてきた。一方で、日本は長引く円高とデフレで企業の生産拠点が海外に流失し、経済成長の源泉である国内での

企業活動が停滞する結果となった」と指摘する。さらにEUの拡大とユーロの導入もドイツにとって追い風となった。ドイツに企業立地すればEU26か国に無関税で輸出できるため、ドイツへの投資が加速。また、ギリシャなどの南欧諸国も参加するユーロは、ドイツにとっては自国経済の実力よりも通貨価値が低めに設定されるために輸出に有利になった。

永浜氏は「日本国内では、円高や高い法人税、経済連携協定への対応の遅れやエネルギーコスト高などの「6重苦」が長年指摘されてきた。着実な経済成長を実現してきたドイツと、長期停滞から抜け出せなかった日本の差がどんどん開いてしまったのが、日独逆転の理由だ」と強調する。日本から見れば着実にGDPを伸ばしてきたドイツだが、ロシアや中国への過度の依存が裏目に出て、足元では苦境に陥っており、「GDP世界3位」への高揚感はない。「ドイツはもはや競争力に優れていない。成長できず、貧しくなっている」。

ドイツのリントナー財務大臣は2月5日、フランクフルトで開かれたイベントで嘆いた。連邦統計局によると、23年の経済成長率は前年比マイナス0.3%となった模様で、主要な先進国で唯一のマイナス成長となる可能性が高い。不振の要因は大黒柱の製造業だ。産業用電気料金はフランスや日本と比べても割高で、米国の約2倍。天然ガス料金も日本より1割高く、米国の2倍を上回る。製造工程でエネルギーを大量使用する化学や鉄鋼、非鉄などが足を引っ張る。

ドイツはロシアによるウクライナ進行前、天然ガス輸入の55%をロシア産に頼ってきた。侵攻後は液化天然ガス(LNG)への切り替えを急ぐが、割高で設備投資も必要なため、製造業のコスト増につながっている。最大の貿易相手国である中国経済の減速も痛手だ。ドイツ経済研究所によると、23年1~6月期の対中輸出は前年同期比8%超の縮小。特に自動車・部品の輸出が21%減となったのが響いた。ドイツの自動車産業は中国での電気自動車(EV)シフトにも出遅れている。中長期的には日本と同様、人口減、熟練労働者不足など問題も抱え、前途は多難といえそうだ。独メディアグループRNDは、コラムで日本とのGDP逆転は、主に円安の影響で起きたものであり、日本企業の弱さを示すものではないと分析。「ドイツはこれを喜んでよいのか、おそらくそうではない」と抑制したトーンで伝えている。

国際通貨研究所理事長の渡辺氏は「日本とドイツはエネルギーと食料を国内調達できず、その資金を工業製品の輸出で稼いできたという共通点がある。類似の経済構造を持ち、かつて2倍以上の開きがあったGDPで追い抜かれたのは、ドイツが伸びたのではなく、日本の経済成長力と製品開発力が落ちたからであり、日本経済が1990年代以降、成長できないまま、横ばいで推移しているところに問題がある。日本は人口が減少に転じる中で、1人当たりGDPの維持・向上を目指してきたが、これもできていないことがさらに深刻な問題だ。一人当たりGDPはドイツに抜かれるどころか、経済協力開発機構(OECD)加盟38か国中21位であり、主要七か国(G7)で最下位。このままではアジアの中でもいざれ韓国や台湾に抜かれるだろう。こうした状況を挽回するため、中国が製品の企画やデザイン、部品製造、組み立てまで一国で完結できる体制を整えるのに対抗して、日本は改めて韓国や東南アジア諸国連合(ASEAN)を巻き込んだ、もうひとつのサプライチェーン構築に動くべきだ。そうする中で経済の潜在力を高めていく必要がある」と話します。

また大阪大学特任教授の小野氏は「GDPは生産と消費・投資の側面から、その国の経済規模の大きさを測る「物差し」に過ぎない。発展途上国のように経済の成長期にあり、人々がモノやサービスをほしがる段階では、生産が増えた分だけ消費も増える。つまりGDPの増加が国民が消費できる量、言い換えれば豊かさの増加を意味するため、重要な意義がある。しかし、日本のような経済が成熟した国は事情が異なる。1990年代以降、日本は一人当たりの家計金融資産で世界トップクラスであり、いわば「世界の大金持ち」だ。それなのに消費が伸びず、その結果、GDPも増えなかったのは、日本全体として人々がかつてほど新しいモノやサービスを必要としておらず、「お金をためておきたい」と考えているからだ。

今やGDPは豊かさを示す指標ではなく、他国と順位を争うことに何ら意味はない。GDPの増加を自己目的化し、国際順位に一喜一憂するより、国民一人一人の生活の質を引き上げることの方が重要だ。例えば介護や保育、環境、観光、芸術など、人々の満足につながる事業を充実させていくことが日本の目指す方向だろう」と述べられています。小野特任教授の意見には私も同意見です。経済はもちろん大切ですが、障害を持った人も含めて、日本人全ての人が公平に豊かな暮らしを享受できる国を目指すべきだと痛感します。

## 幹事報告

1. 先週の例会で行いました「翡翠賞」授与式の宮日新聞掲載記事が本日の朝刊に掲載していました。
2. ローター希望の風奨学金より、「風の便り」(通刊 112号)が届いておりますのでご覧ください。
3. 国際ロータリー日本事務局財団室より「財団室 NSWS 2024年3月号」が届いております。
4. 公益財団法人宮崎県国際交流協会の機関誌「サウスウインド 第104号」が届いております。

## スマイル

- 黒岩久登君 本日の宮日新聞に先日の「翡翠賞」の記事が出ていました。ロータリークラブの認知がますます広がればよいと思い、スマイルします。
- 峰松俊夫君 ・ロータリーの友3月号 縦書き18ページ（全体51ページ）にポリオ根絶についての記事が掲載されていました。原稿料はもらっていませんが、（手出し）スマイルします。  
・縦書き21ページ 声（ロータリーの友12月号の感想）でクイズの解答時に書いた感想が載っていました。
- 野崎正彦君 早退します。

## 例会行事

### ゲスト卓話 水居 徹氏（アイコムティ（株）代表取締役・宮崎アカデミーRC）



本日のゲスト卓話は、アイコムティ（株）代表取締役・宮崎アカデミーRCの水居徹氏をお招きして、「生成AIを知って使ってみるきっかけになるセミナー」と題してお話をお聞きしました。

水居徹氏は当クラブにも何度か拉致問題についての講演をして頂きました。今回は生成AIについての講演をお聞きしました。

文章生成 AI ChatGPT の紹介があり ChatGPT の実演が有り、画像生成 AI stable diffusion の紹介及び実演、マイクロソフトの新サービス Bing: Chat with AI & GPT-4 の紹介の実演が有りました。

文章生成 AI の用途として、メールの作成、記事の作成、情報収集・調査、文章の校正・要約、プログラミング、翻訳・英語学習、アイデア出し、クイズ・検定問題作成、小説・詩の創作、プロンプトの作成などがあげられるそうです。生成AIのプロフェッショナルの増加で能力が高レベル化し、AI エンジニアの登場で産業の大改革が実現する事も有りうるとの事です。

生成AIとの付き合い方として、AI＝文明の利器と割り切って使うこと、よく知ることと使ってみることが大事、リスクを自分で認識し、あくまでもツールであり相談できるパートナーであることを認識することだそうです。

興味のある方は、アイコムティ株式会社 0985-61-1945 に連絡を

## 出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	HC出席	MU	欠席	出席	出席率
今 週	30	7 (3)	27	23	2	2	25	92.59%
出席免除	落丸、清水、渡邊							
先取MU	斉藤（篤）、豊田							
欠 席	石灘、村社							

事務局〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：黒岩久登 副会長：築瀬 敦 幹事：井野畑善順 雑誌会報広報委員長：河野通郎

雑誌会報広報委員会より 原稿は、[ocame@wing.ocn.ne.jp](mailto:ocame@wing.ocn.ne.jp) まで送信してください。